

モデルルートによる取組みの考え方



■取り組みの進め方

モデルルートの設定

- 整備局と県・政令市が連携して掘り起こし

協議会の設置

- 既存の枠組みを活用し、国、自治体、DMO、観光事業者、地域の関係者等で構成
- 路面表示や案内看板の仕様等を含め、実施内容について検討・調整

準備が整い次第

モデルルートにおける取組内容の決定 【地方版自転車活用推進計画に位置付け】

- 走行環境整備（安全対策、案内看板等）
- 受入環境整備（休憩所、サポート体制等）
- 魅力づくり（滞在コンテンツの充実・強化等）
- 情報発信（ルートマップ作成、ICTの活用等）

取組内容の評価・改善

- サイクリストの声や関連データの収集・分析
- 先進地との情報交換

■モデルルート設定の考え方

- 複数の市町村に跨がる等、広域的なルートであるか
- サイクリストを惹きつける魅力や、価値創造の素地があるか
- サイクリストの支援に向けて、地域の関係者の協力が得られるか

■サイクリング環境向上策の例

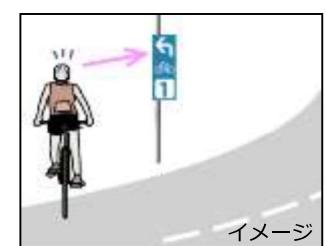
- トイレ／給水
- 入浴やシャワー施設
- おしごりの提供
- 観光パンフレットやサイクリングマップの設置



- サイクルスタンド
- メンテナンススペース
- 工具／空気入れの貸出
- レンタサイクル
- ロッカー（一時荷物預り）



イメージ
<路面表示>



イメージ
<案内看板>

- 日除けのある屋外の休憩スペース
- 長時間利用可能な駐車スペース

＜道の駅のサイクリング拠点化＞

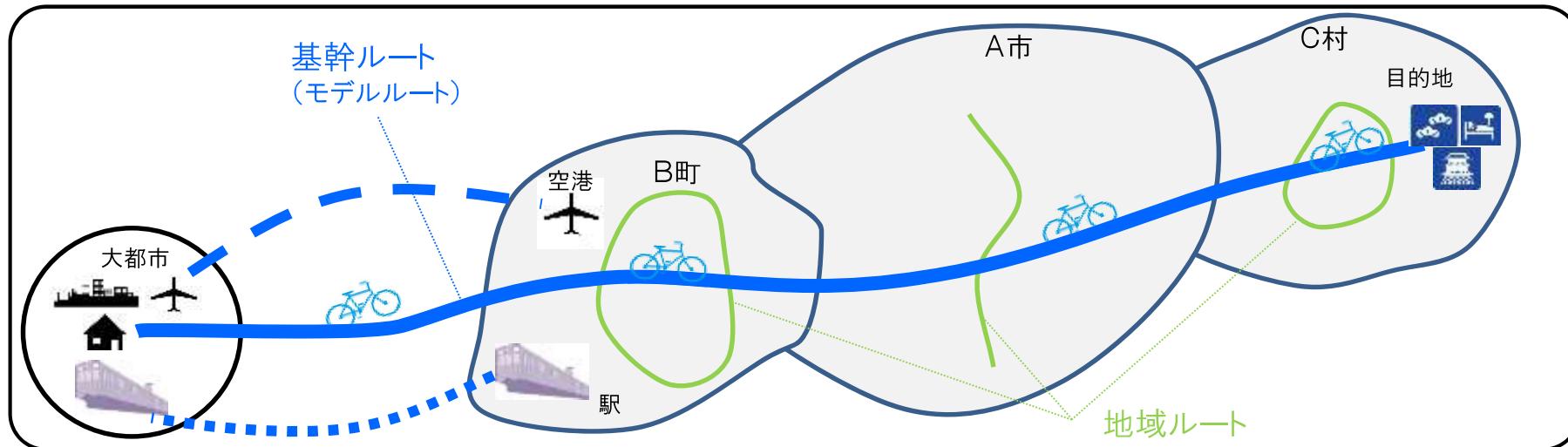
（アクセス方法、コース難易度、レスキューサービス、ガイドツアー、交通ルール等、サイクリストの視点に立った情報発信（多言語対応））

モデルルート設定の考え方



○モデルルートは、試行への協力を得られる地域の活動主体が存在するとともに、市町村をまたぐような骨格となる「基幹ルート」となるよう設定。

	基幹ルート(モデルルート)	地域ルート
特徴	市町村をまたぐような骨格となるサイクルルート	(基幹ルート周辺の) 地域の短距離のサイクルルート
コンセプト	空港や駅、大都市と目的地を結び、安全・安心に移動できる (案内や休憩等施設が整っている)	基幹ルートから離れているビューポイントなど、隠れた地域資源を楽しめる



○試行を行う箇所(モデルルート)は、基幹ルートや試行の内容を踏まえ、下記を満たすように設定

- ① モデルルート試行への協力を得られる地域の活動主体が存在
(受入環境の充実や情報発信のためのデータ収集、アンケートの実施等)
- ② 市町村をまたぐような、骨格となるルート(基幹ルート)であること